F－26 週休２日制が家庭生活に及ぼす影響(1)――総　括

金城学院大家政　○今井光映，岐阜大教育　堀田剛吉，静岡大教育　村尾勇之，椙山女学園大家政　山口久子，金城学院大短大　生川浩子

目的：①週休２日制が普及し，定着するにつれて，家政がそうした生活環境の変化にどのように適応し，ライフ・スタイルを変化させているのか，②意識と現実の行動との間にどのような関連があるのか，③そこから，週休２日制にこれから入ろうとしている家政が考えておかなければならないことはなにか，④さらに国・自治体や企業が考えなければならない自由時間ポリシーはなにかなど，週休２日制をめぐる家庭生活問題を解明することを目的とした。この第１報では，とくに生活意識・価値観について問題をとらえた。

方法：週休のタイプを①完全２日制と，それへ至る過程タイプとして②隔週２日制，③１日と半ドン制，④１日制の４タイプに分け，それぞれのタイプにみられる生活意識・生活行動のスタイルの差と，移行の過程をみるという方法をとった。
調査対象はそれぞれのタイプごとに20例ずつとした。サンプリング・サイズがこのように小さいことから，調査対象の家族は核家族，専業主婦，子ども２人（大学生は含まない），夫の年齢35～44歳，年収200～300万というように条件限定した。

結果：週休タイプによって生活意識・価値観にかなりの差はみられる。しかし生活意識と生活行動との関連には，関連係数など統計技術的には，必ずしも大きな差があるとはいえない。理想と現実との間のギャップ，意識と行動との間のギャップに注目したい。